

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床工学技士科(昼間部)		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	臨床検査概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	後期	教室名	
担 当 教 員	柴山 沙織 神前 雅彦	実務経験と その関連資格	病院の臨床検査実務経験20年以上、認定心電検査技師、認定専門技師(脳波、神経伝導検査)二級検査士(神経生理、呼吸生理)など / 病院臨床検査実務経験10年以上、緊急臨床検査士、日本糖尿病療養指導士、認定認知症領域検査技師 など			
《授業科目における学習内容》						
臨床検査の意義や目的を理解し、検査データの解釈ができるため、検査の流れや医療事故防止のための重要事項と各検査項目の目的・測定手技・基準範囲の背景など、幅広い知識を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験評価、出席評価点、平常評価点						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 別巻 臨床検査 編集:大久保昭行 発行者:株式会社 医学書院						
《授業外における学習方法》						
特になし						
《履修に当たっての留意点》						
臨床工学技士がその職務や、チーム医療の一員として患者にかかわるとき、臨床検査の一般的知識・学識が必要になると思われる。そこで、本講義がその一助になれば幸いである。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床検査の全体的な流れと役割について理解し、検体採取から検査の実態、検査結果の取り扱いについて知る。	教科書 配布プリント	授業後の復習と関連する国家試験の問題とその解説を見ておくこと。	
		各コマにおける授業予定	臨床検査の流れについて、検査の準備、採取、保存、検査結果における留意点などを通して説明する。診療における臨床検査の役割、臨床検査の目的と結果の解釈について説明する。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	一般検査(尿・便検査)および血液検査の意義、検査方法、基準範囲などを学び、関係臓器の異常を理解する。	教科書 配布プリント	授業後の復習と関連する国家試験の問題とその解説を見ておくこと。	
		各コマにおける授業予定	一般検査:腎臓の働きと尿の生成および尿・便・体腔内貯留液、脳脊髄液などの検査 血液検査:赤血球沈降速度、血液検査(血液の成分、赤血球・白血球・血小板の検査)、止血・凝固検査など			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	化学検査(血清蛋白質、血清酵素、糖代謝、脂質代謝、胆汁、窒素化合物、骨代謝など)の意義、検査方法、基準範囲などを学び、関係臓器の異常を理解する。	教科書 配布プリント	授業後の復習と関連する国家試験の問題とその解説を見ておくこと。	
		各コマにおける授業予定	化学検査 血清蛋白質、血清酵素、糖代謝、脂質代謝、胆汁排泄関連物質、窒素化合物、骨代謝、腎機能、電解質検査、血液ガス分析など			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	免疫血清学検査の意義、検査方法、基準範囲などを学び、関係臓器の異常を理解する。	教科書 配布プリント	授業後の復習と関連する国家試験の問題とその解説を見ておくこと。	
		各コマにおける授業予定	免疫血清学検査:炎症マーカー検査、液性免疫の検査、細胞性免疫検査、自己抗体検査、輸血検査			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌学検査(下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン、性腺ホルモンなど)の意義、検査方法、基準範囲などを学び、関係臓器の異常を理解する。	教科書 配布プリント	授業後の復習と関連する国家試験の問題とその解説を見ておくこと。	
		各コマにおける授業予定	内分泌学検査:下垂体前葉ホルモン検査、下垂体後葉ホルモン検査、甲状腺ホルモン検査、副甲状腺ホルモン検査、性腺ホルモン検査、膵臓ホルモン検査など			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	病理検査の意義、検査方法などを学び、関係組織の異常を理解する。	教科書 配布プリント	授業後の復習と関連する国家試験の問題とその解説を見ておくこと。
	各コマにおける授業予定	病理検査 細胞診検査、病理組織検査		
第7回	講義形式	感染症の診断と検査の意義、検査方法、基準範囲などを学び、関係臓器の異常を理解する。各種病原体の特性を学び、検査方法、薬物感受性について理解する。	教科書 配布プリント	授業後の復習と関連する国家試験の問題とその解説を見ておくこと。
	各コマにおける授業予定	微生物学検査 感染症の診断と各感染症の検査 各種病原体の特性と検査方法		
第8回	講義形式	生理機能検査の意義、検査方法、基準範囲などを学び、関係臓器の異常を理解する。	教科書 配布プリント	授業後の復習と関連する国家試験の問題とその解説を見ておくこと。
	各コマにおける授業予定	生体検査 生理機能検査(循環機能、呼吸機能検査、神経機能検査)、 生体画像検査(超音波検査、サーモグラフィ)、内視鏡検査		